

新たな陸地を測る「西之島」

国土地理院測地部

国土地理院では、我が国の領海や排他的経済水域の外縁を根拠付ける離島における基本的な位置情報と地図を整備するため、平成18年度から離島に基準点を設置し、緯度・経度・標高を求める測量を行っています。

東京から南方約950kmに位置する西之島は平成25年11月から噴火が始まり、島の地形が大きく変化しました。これを受け国土地理院は、海上保安庁の協力を得て、平成28年10月に西之島に上陸し現地測量を実施しました。



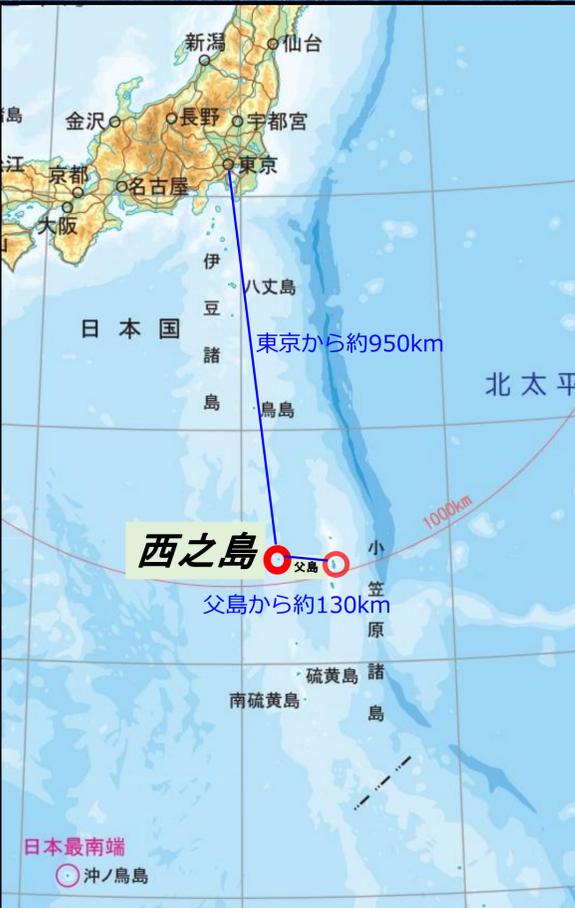
三角点を設置し、緯度・経度を測る（GNSS測量）



潮位を測る（GNSSブイ）



平成28年12月 国土地理院撮影



海上保安庁測量船「昭洋」からボートで西之島へ上陸



高さ（標高）を測る水準測量



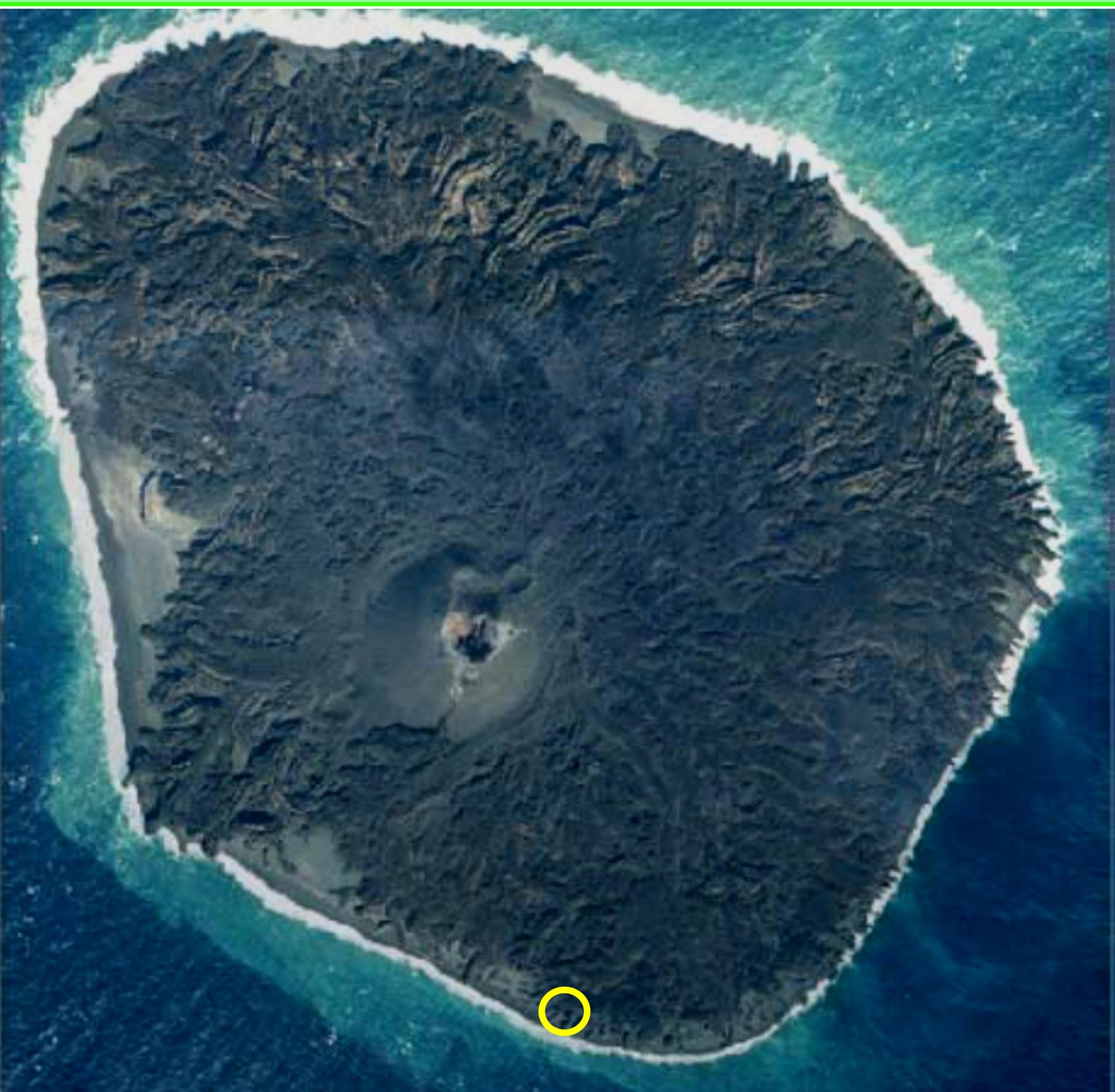
国土地理院職員



アオツラカツオドリ

西之島の溶岩(安山岩)

国土地理院測地部



平成28年12月国土地理院撮影

展示している溶岩（安山岩）は、三等三角点を設置した場所（写真の黄色丸印）で、平成29年1月28日に採取しました。

マグマに含まれていたガスが抜けて、比較的速やかに冷えたため空隙がみられます。